



平成26年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年1月31日

上場会社名 株式会社 丸順
 コード番号 3422 URL <http://www.marujun.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 代表取締役副社長
 四半期報告書提出予定日 平成26年2月13日
 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 名
 (氏名) 今川 喜章
 (氏名) 小高 光一
 TEL 0584-89-8181

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年3月期第3四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第3四半期	47,986	21.4	763	△11.7	604	△17.2	817	111.3
25年3月期第3四半期	39,529	45.1	864	—	730	—	386	—

(注) 包括利益 26年3月期第3四半期 2,538百万円 (281.9%) 25年3月期第3四半期 664百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第3四半期	84.02	—
25年3月期第3四半期	39.59	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年3月期第3四半期	50,216	10,974	14.7
25年3月期	40,698	9,171	15.2

(参考) 自己資本 26年3月期第3四半期 7,370百万円 25年3月期 6,166百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	2.00	—	2.00	4.00
26年3月期	—	2.00	—	—	—
26年3月期(予想)	—	—	—	2.00	4.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成26年3月期の連結業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	65,000	25.3	2,500	152.4	2,000	148.6	1,200	120.1	126.46

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	26年3月期3Q	9,771,000 株	25年3月期	9,771,000 株
② 期末自己株式数	26年3月期3Q	1,004,855 株	25年3月期	4,855 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	26年3月期3Q	9,726,145 株	25年3月期3Q	9,766,145 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P3「(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(4) セグメント情報等	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における世界経済は、先進国を中心に持ち直しの兆しを見せ、欧州地域では長期化していた景気の低迷が緩やかな回復基調へと転じたほか、中国では先進国向け輸出の増加と豊かな内需に支えられ成長ペースが安定化するなど、全体として穏やかに推移しました。

当社グループが属する自動車業界においては、米国では持続的な景気の回復により需要が堅調に推移したほか、中国では景気の持ち直しに併せて新車需要が拡大しており、上海や広州といった沿岸部の消費者に加え、都市化が進む内陸部でも需要が伸びております。また、日本国内では軽自動車及びハイブリッド車の需要が好調に推移したほか、消費税率の引き上げを前にした駆け込み需要も顕著化しております。

このような状況のもと、当社グループは第5次中期経営計画仕上げの年として、ボトム生産体質の構築や高張力鋼板加工技術をはじめとするコア技術の進化、海外での受注戦略の強化など、グローバル企業への種まきと基盤づくりに取り組んでまいりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は47,986百万円（前年同四半期比21.4%増）、営業利益は763百万円（前年同四半期比11.7%減）、経常利益は604百万円（前年同四半期比17.2%減）、四半期純利益は817百万円（前年同四半期比111.3%増）となりました。

セグメント別の業績は以下のとおりであります。

(丸順)

丸順においては、エコカー補助金制度終了による自動車需要の反動減や新機種立上りに伴う費用の増加による原価高などにより、売上高、利益ともに前年を下回る水準で推移いたしました。

売上高は11,639百万円（前年同四半期比13.2%減）、経常損失は584百万円（前年同四半期は680百万円の経常利益）となりました。

(タイ)

タイにおいては、ASEAN地域への堅調な輸出の増加や主要取引先の生産が好調に推移したことなどにより、売上高、利益ともに前年を上回る水準で推移いたしました。

売上高は10,213百万円（前年同四半期比66.4%増）、経常利益は1,057百万円（前年同四半期は280百万円の経常損失）となりました。

(広州)

広州においては、尖閣諸島をめぐる日中関係悪化の影響を受けて減少した主要取引先の生産が回復途上にあるほか、為替の影響により売上高は増加したものの、新設備の導入に伴う費用、及び、労務費の増加などにより利益は減少いたしました。

売上高は9,262百万円（前年同四半期比36.7%増）、経常利益は159百万円（前年同四半期比40.5%減）となりました。

(武漢)

武漢においては、為替の影響により売上高は増加したものの、新機種立上りに伴う費用、及び、労務費の増加による原価高などにより利益は減少いたしました。

売上高は3,911百万円（前年同四半期比13.6%増）、経常利益は226百万円（前年同四半期比30.4%減）となりました。

(インディアナ)

インディアナにおいては、主要取引先の増産があったほか、当社グループの生産体質を浸透させるための様々な取組みを行い、売上高は前年を上回る水準で推移し、利益は改善いたしました。

売上高は13,063百万円(前年同四半期比33.6%増)、経常損失は46百万円(前年同四半期は247百万円の経常損失)となりました。

(四輪販売)

四輪販売においては、エコカー補助金制度の終了に伴って落ちこんでいた新車及び中古車の需要が回復し、売上高は増加したものの、新規出店に伴う費用の増加などにより利益は減少いたしました。

売上高は2,281百万円(前年同四半期比14.7%増)、経常利益は4百万円(前年同四半期比79.1%減)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

資産、負債及び純資産の状況

当社グループの当第3四半期連結会計期間末における資産総額は、50,216百万円となり、前連結会計年度末と比較し、9,518百万円の増加となりました。これは主に現金及び預金が44百万円減少、受取手形及び売掛金が2,621百万円増加、仕掛品が695百万円増加、有形固定資産が7,035百万円増加したことが要因であります。

負債総額は39,242百万円となり、前連結会計年度末と比較し、7,715百万円の増加となりました。これは主に、支払手形及び買掛金が2,628百万円増加、短期借入金が2,437百万円増加、長期借入金が1,236百万円増加、リース債務が230百万円増加したことが要因であります。

純資産は10,974百万円となり、前連結会計年度末と比較し、1,802百万円の増加となりました。これは主に、利益剰余金が778百万円増加、為替換算調整勘定が1,174百万円増加したことが要因であります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期業績予想につきましては、国内は新型車の部品の立上りロスについて生産安定化が見込まれており、海外は引き続き主要取引先の生産が好調に推移することが見込まれることから、現時点では平成25年7月31日発表の通期業績予想を据え置き、今後の市況や業績動向等を踏まえ修正が必要と判断された場合には、速やかに開示いたします。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

(税金費用の計算)

当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,026	1,981
受取手形及び売掛金	6,698	9,320
商品及び製品	419	666
仕掛品	1,561	2,256
原材料及び貯蔵品	1,540	1,658
その他	2,615	1,715
貸倒引当金	△14	△16
流動資産合計	14,848	17,582
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	5,972	6,292
機械装置及び運搬具(純額)	6,152	6,739
工具、器具及び備品(純額)	4,511	7,115
土地	2,102	2,151
リース資産(純額)	1,312	1,362
建設仮勘定	3,256	6,680
有形固定資産合計	23,306	30,342
無形固定資産	223	245
投資その他の資産		
その他	2,337	2,063
貸倒引当金	△17	△17
投資その他の資産合計	2,320	2,046
固定資産合計	25,850	32,634
資産合計	40,698	50,216

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	6,450	9,078
短期借入金	10,166	12,604
リース債務	303	345
未払法人税等	63	99
賞与引当金	229	224
その他	2,561	3,862
流動負債合計	19,774	26,215
固定負債		
長期借入金	9,207	10,444
リース債務	638	826
退職給付引当金	953	1,044
資産除去債務	84	85
負ののれん	8	4
その他	860	622
固定負債合計	11,752	13,027
負債合計	31,527	39,242
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,037	1,037
資本剰余金	935	935
利益剰余金	3,747	4,525
自己株式	△2	△626
株主資本合計	5,718	5,872
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	706	582
為替換算調整勘定	△259	915
その他の包括利益累計額合計	447	1,498
少数株主持分	3,005	3,603
純資産合計	9,171	10,974
負債純資産合計	40,698	50,216

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
四半期連結損益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
売上高	39,529	47,986
売上原価	35,195	43,790
売上総利益	4,333	4,196
販売費及び一般管理費	3,468	3,433
営業利益	864	763
営業外収益		
受取利息	6	5
受取配当金	22	25
為替差益	76	189
助成金収入	65	—
その他	37	47
営業外収益合計	209	268
営業外費用		
支払利息	323	387
その他	19	39
営業外費用合計	343	426
経常利益	730	604
特別利益		
固定資産売却益	13	54
投資有価証券売却益	0	505
受取保険金	1,418	—
その他	—	40
特別利益合計	1,432	600
特別損失		
固定資産売却損	2	9
固定資産廃棄損	520	—
減損損失	580	—
段階取得に係る差損	128	—
その他	64	—
特別損失合計	1,296	9
税金等調整前四半期純利益	865	1,195
法人税等	371	145
少数株主損益調整前四半期純利益	494	1,050
少数株主利益	107	233
四半期純利益	386	817

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	494	1,050
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	72	△124
為替換算調整勘定	98	1,612
その他の包括利益合計	170	1,488
四半期包括利益	664	2,538
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	547	1,867
少数株主に係る四半期包括利益	117	671

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、平成25年12月13日開催の取締役会において自己株式の取得を決議し、平成25年12月20日付で自己株式の取得を実施いたしました。これにより、自己株式が624百万円増加し当第3四半期連結会計期間末において626百万円となりました。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント						合計
	丸順	タイ	広州	武漢	インディアナ	四輪販売	
売上高							
(1) 外部顧客への売上高	11,922	6,077	6,320	3,441	9,782	1,985	39,529
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	1,493	60	453	0	0	3	2,010
計	13,415	6,137	6,773	3,442	9,782	1,988	41,539
セグメント利益又は損失(△)	680	△280	267	325	△247	19	764

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容 (差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	764
セグメント間取引消去	70
子会社配当金	△132
その他の調整額	28
四半期連結損益計算書の経常利益	730

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「タイ」セグメントにおいて、新工場への移転に伴い使用が見込まれず遊休資産となる土地及び建物等について、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として認識いたしました。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間において580百万円であります。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						合計
	丸順	タイ	広州	武漢	インディアナ	四輪販売	
売上高							
(1) 外部顧客への売上高	9,781	10,182	8,936	3,749	13,063	2,273	47,986
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	1,857	30	326	162	0	7	2,384
計	11,639	10,213	9,262	3,911	13,063	2,281	50,371
セグメント利益又は損失(△)	△584	1,057	159	226	△46	4	815

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	815
セグメント間取引消去	△36
子会社配当金	△169
その他の調整額	△3
四半期連結損益計算書の経常利益	604

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。